

しもながや



横浜市立下永谷小学校

この夏、どんな出会いが……

学校長 関谷 道代

早朝の教室から、大きな叫び声。
何が起きたのかとあわてて教室に飛び込むと、いちばんに登校した子どもが、さなぎからアゲハチョウになっていた虫かごを見て、大興奮。
「きのうは、確かに、さなぎだったんだよ。ほんとだよ！すごいでしょ。」

得意満面な笑顔とキラキラした瞳を見たら、我が子が幼かった頃のことを思い出しました。

こたつに足を入れたら、中から、ダンゴムシがのそのそ、ぞろぞろ、歩いてきました。「ぼくが入れたんだよ。ダンゴムシ、寒いかなあとと思って。」またある時は、机の引き出しの中に、ホチキスの針を入れる小さな箱。中には針でなく、ダンゴムシがところ狭しとぎっしり入っていました。

「宝物だから。」……仰天することがたくさんありました。

5月23日～24日は6年箱根、5月29日～30日は4年三浦、6月14日～15日は5年御殿場。3つの宿泊体験学習を無事に終えることができました。

どの学年も快晴に恵まれ、予定していた活動がすべてできたことを幸せに思います。早朝よりお弁当作りやお見送りに来てくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。



一緒に生活をしている時間が長いと、子どもたちの様々な実態も見えてきます。

芝生の上でお弁当を食べていると、レジャーシートにアリが近づいてきたときのこと。そこで見た光景は、アリのこわがり泣き出す子どもの姿。アリから離れるために、おにぎりを手を持ち逃げ回りながら食べる子ども。「こっちにくるな」とぬいだ運動靴で思い切り叩きつぶす子ども。現代においては気密性の高い家で育ち、小さな虫たちが身近にいない生活で、あまり小さな虫たちにお目にかかることのないのかなあと想像しました。

もちろんすべての子どもがそうなのではなく、虫を手のひらに乗せて見せに来る子どもがいることも事実です。先日は、登校した数人の子どもたちが東門のところでしゃがんでいるので何かとのぞいてみると、クワガタを捕まえていました。小さなファーブルくんは、きっと得意になって教室でお友達に見せるのでしょう。

ネイチャーワールドを生かして、自然体験をする学年。

田んぼの田おこし、しろかき、田植えに取り組む学年。

自分の植木鉢の花や野菜を毎日観察する学年。教室で小さな虫たちを観察する学年。

最近、気が付くといつだって探検バックを持って観察をしている姿や、敷地内の池で教室で飼う生き物を捕獲している姿を見かけます。遠くに行かなくても、身近に自然はたくさんあるのです。自分が見る目を持っていれば、何かを発見できるのです。「直接体験」に勝るものはありません。そこで危険かどうかを判断する経験にもなります。

この夏、たくさんの「自然体験」や「驚き」や「発見」をして、心で感じる学びを。……でも、くれぐれもお家の方を仰天させないでね。今月もどうぞよろしくお願ひします。